

stool H

土間で使える3本脚のスツール



3本脚のスツールは見る角度によってその表情を変えます。

設計趣旨

京都の街には石畳や通り庭、三和土土間など自然の風合いを持つ床や地面が室の内外に関わらず多くあります。そんな場所でふと腰を下ろせる場所が欲しい時、人は軒先に置かれたベンチや植え込みの縁にその場を求めます。そんな当たり前の"座る"という行為にもっとフレキシビリティを与えたい。

座る場所を求めるのではなく、自らその座る場所を持ち運ぶような感覚。

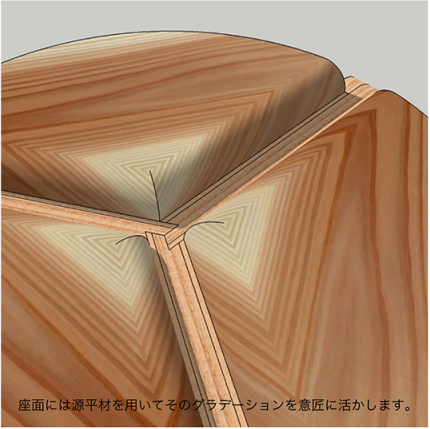
3本脚のスツールは、自然の風合いを持つ床の凸凹に関わらず安定し、また杉や檜特有の軽さにより気軽に座りたい場所へと持ち運ぶことができます。

気軽に持ち運ぶことができる椅子は、使わない時の片付けも気軽にできるものでなければいけません。そしてその片付けられた姿もまた空間の邪魔になるようなものであってはなりません。

このスツールはスタッキング可能とし、その重ねられた美しい姿もまたひとつのオブジェのように空間を彩ります。

3本の脚は間伐材による集成材として強度を確保し、それぞれの脚の間を繋ぐようにして3枚の座面が連結されます。脚と座面が相互につながることで、スツール全体として総持ちの強度を確保します。

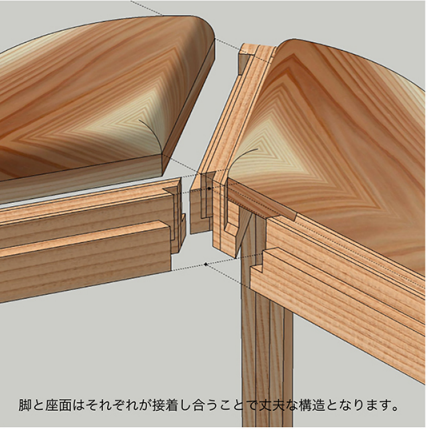
座面には源平材を用い、その赤身から白太の美しいグラデーションを意匠的に活かすようなデザインとしています。



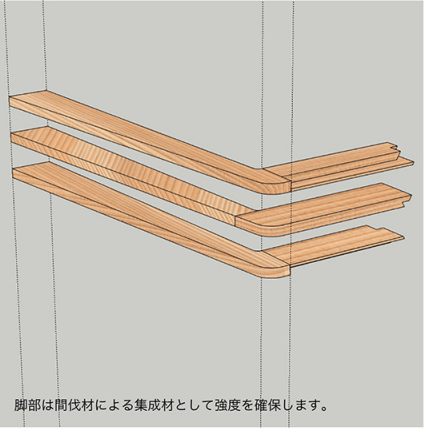
座面には源平材を用いてそのグラデーションを意匠に活かします。



複数使用の時にはスタッキングもできます。
そのスタッキングされた姿は美しく空間を彩ります。



脚と座面はそれぞれが接着し合うことで丈夫な構造となります。



脚部は間伐材による集成材として強度を確保します。

概要

W351×D381×H(SH)420
脚：檜集成材（間伐材）
座面：杉（源平材）

三面図 S=1:5

